

令和2年度第1回釜石市艦砲戦災犠牲者特定委員会開催結果

- | | |
|--------|---|
| 1 日 時 | 令和3年2月15日（月）午後1時30分～午後3時 |
| 2 場 所 | 釜石市民ホールT E T T O 会議室2 |
| 3 出席委員 | 4名 小野寺英輝 委員長、平田裕彌副 委員長、中村公一 委員、柴田渥 委員 |
| 4 欠席委員 | 1名 佐々木郁子 委員 |
| 5 市出席者 | 5名 市長 野田武則、保健福祉部長 水野由香里、地域福祉課長 村上徳子、同課地域福祉係長 小笠原智史、同課主事 昆諒輔 |
| 6 傍聴者 | 0名 |
| 7 会議結果 | 以下のとおり |

1 開 会

【小笠原地域福祉係長】

定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。

本日は、ご多忙のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は、地域福祉課 地域福祉係長の小笠原と申します。しばらくの間、進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、改めて艦砲射撃で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするため、黙とうを捧げたいと思います。みなさま、ご起立願います。

お直りください。ご着席願います。

それでは、只今から第1回釜石市艦砲戦災犠牲者特定委員会を開催いたします。

本日の出席委員は、5名中4名で半数を超えておりますので、釜石市艦砲戦災犠牲者特定委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、お手元の次第に沿って進行させていただきます。

2 委嘱状交付

【小笠原地域福祉係長】

本日は、第1回の委員会でありますことから、委嘱状の交付を行います。

委嘱状は、野田市長より、名簿順に交付させていただきます。お1人ずつ名前をお呼びいたしますので、お名前を読み上げましたら、前の方にご移動をお願いいたします。

①小野寺 英 輝（おのでら ひでき）様

②中 村 公 一（なかむら こういち）様

③平 田 裕 彌（ひらた ゆうや）様

④柴 田 渥（しばた あつ）様

なお、佐々木 郁 子（ささき いくこ）様につきましては、急用につき、本日の委員会は欠席となっております。委嘱状は、追って事務局から交付させていただきます。

3 市長挨拶

【小笠原地域福祉係長】

次に、野田市長がご挨拶を申し上げます。

【野田市長】

令和2年度第1回釜石市艦砲戦災犠牲者特定委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

只今、委嘱状をお渡しした委員の皆様につきましては、大変ご多忙の中、釜石市艦砲戦災犠牲者特定委員をお引き受けくださり、心から感謝を申しあげます。また、日頃から、福祉行政のみならず、様々な市政推進にご理解とご支援をいただき、厚く御礼を申し上げます。

当市におきましては、昭和20年7月14日と、8月9日の2回にわたる艦砲射撃により甚大な被害を受け、多くの尊い命が失われ、市街地が焦土と化してから75年の歳月が経過いたしました。

これまで、犠牲になられた市民並びに遠い異国の地で無念の死を遂げられた外国人の方々に対する追悼行事の実施や、戦争の悲惨さ、平和の大切さを後世に伝えていく様々な取り組みをすすめてまいりました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、戦没者追悼式の中止を余儀なくされましたが、戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう、平和な世の中にすることが、我々に課せられた使命でありますので、引き続き、尽力してまいります。

さて、本日皆さまにご審議いただく「艦砲戦災誌」につきましては、昭和51年3月に市が発行したもので、艦砲戦災の記録をまとめた1つの大きな区切りとなりましたが、戦災誌に掲載されている犠牲者の他にも、もっと犠牲者がいるのではないかとの指摘があったことから調査を行い、平成28年度に「犠牲者特定委員会」を立ち上げ、委員の皆様のお力添えをいただき、新たに19名の犠牲者を認定することができました。

この度、新たな事案として、外国人の犠牲者に関する戦災誌への登載について検討が必要となりましたので、再び「犠牲者特定委員会」を設置し、委員の皆様のご意見、お力添えをいただくことになりました。

委員の皆様には、忌憚のないご意見やご助言を賜りますようお願い申し上げ、私からのご挨拶といたします。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

【小笠原地域福祉係長】

ここで、野田市長につきましては、別用務のため退席させていただきます。ご了承ください。

4 出席者紹介

【小笠原地域福祉係長】

それでは、私から、本日出席者をいただいております委員の皆さまをご紹介いたします。

小野寺 英 輝 委員です。

中 村 公 一 委員です。

平 田 裕 彌 委員です。

柴 田 渥 委員です。

続きまして、事務局側の出席者を紹介いたします。

保健福祉部長の水野 由香里です。

地域福祉課長の村上 徳子です。

地域福祉課地域福祉係の昆 諒輔です。

本日は、よろしく願いいたします。

5 報告 犠牲者特定作業に係る取組状況について

【小笠原地域福祉係長】

次に、犠牲者特定作業に係る経緯及び本委員会について報告いたします。

【村上地域福祉課長】

釜石市の艦砲戦災犠牲者特定委員会の経過につきまして、ご説明いたします。

資料1をご覧ください。

先ほど市長も申し上げましたが、昭和51年3月に当市が発行いたしました「釜石艦砲戦災誌」に登載されている犠牲者は、753名でございますが、市内在住の住民の方が長年に渡って調査した結果、犠牲者が1050名いるという情報が寄せられており、犠牲者の特定並びに名簿の整備が大きな課題でありました。

市では、平成21年度に調査を開始し、新たに3名を認定いたしました。その後の調査は東日本大震災により一時中断しておりました。

平成27年度に調査を再開し、住民の方による調査結果や寺院の過去帳など名簿を照らし合わせる作業を行い、平成28年度、犠牲者の調査及び特定を行い、犠牲者名簿を整備するため、釜石市艦砲戦災犠牲者特定委員会を設置しました。

28年度の委員会では、主に遺族の方の証言と戸籍が一致する方々を犠牲者として、委員の皆様にご提示し、ご意見をいただいたうえで、19名の方を新たに名簿に登載しております。

28年度の調査では名簿に登載されている方々のうち、2名の方が、犠牲者ではないことも分かり名簿から削除しておりますので、現在、773名を犠牲者として犠牲者名簿に登載しております。なお、戸籍等の資料が揃わず保留となった191名の方々につきましては、市の施設や市ホームページ等で氏名を公開し、情報提供を呼びかけておりますが、有力な情報は寄せられておりません。

このような状況の中、今回、再度特定委員会を開催する理由でございますが、28年度3回目の委員会の際、朝鮮人犠牲者を支援する団体の方から情報提供があった、朝鮮人犠牲者の認定についてご審議いただきましたが、事務局側で確認すべき事項が生じ、認定が保留となっておりますので、再度ご審議いただきたく委員会を開催することになりました。

その確認すべき事項とは、朝鮮人犠牲者の認定の際に用いた資料の中に、戦争当時の「日本製鉄株式会社釜石製鉄所」の資料が含まれており、委員の方から、この資料を根拠に犠牲者として認定することについて、同社へ確認するようにとのご意見をいただいたため、後日事務局で確認することになったものです。

その後、事務局で、現日本製鉄株式会社東日本製鉄所釜石地区を通じてこの件について確認を行い「現在の会社組織は、当時のものとは別会社になっているため、意見を言える立場になく、市の判断にゆだねる」との回答をいただいております。

このような経過を経て、改めて、朝鮮人犠牲者を支援している団体から艦砲戦災犠牲者名簿への朝鮮人犠牲者の登載について申出書が提出され、市が所有する各種資料との照合が終わりましたので、委員の皆様よりご意見をいただきたく、令和2年度第1回の艦砲戦災犠牲者特定委員会の開催を決定いたしました。

6 議題(1) 委員長、副委員長の選任について

※以下、非公開のため、開示しません。